

令和7年度 学校経営報告書

八王子市立秋葉台小学校 校長 内藤 彰

1. 経営の基本方針と重点

本年度、本校は「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成」を最上位目標に掲げ、安全・安心な学校環境を基盤としつつ、「自ら課題を見付け、主体的に行動する児童」の育成に注力した。特に、ICTの日常的な活用とデータに基づく指導改善(エビデンスベースの教育)を推進し、地域や保護者との強固な連携のもと、教育活動の質的向上を図った。

2. 「健康で明るい子ども」～心も体も健康でたくましい児童の育成～

(1) 体育・保健指導の成果

「健康で明るい子ども」を最重点項目とし、運動への関心を高めるため外部人材を戦略的に導入した。元ラグビー選手をはじめ8種目のアスリートを招聘した体験活動により、児童の「運動が好き」という肯定的評価は84%に達した。また、夏季の熱中症リスクに対しては、活動場所を体育館へ切り替えるなど柔軟な対応を行い、「安全の確保」と「遊びの保証」の両立を図った。

(2) 体力・運動能力調査の詳細分析と課題

体力面では、高学年における飛躍的な向上が見られた一方、長年継続している課題も浮き彫りとなった。

- **顕著な成果(高評価層の躍進)**: 男子6年生において、最高評価であるカテゴリA・Bの層が劇的に増加した。特にカテゴリBは前年比12.91%(8人)増という極めて高い伸びを記録した。
- **最大の強み(柔軟性)**: 全学年を通じて「長座体前屈」が最大の強みである。1年生男子の時点ですでに全国平均を上回り、6年生男子ではTスコア55.48、2年生女子ではTスコア55.17を記録するなど、全国トップクラスの数値を維持している。
- **継続的な課題(筋力・投力)**: 「握力」および「ボール投げ」は、1年生から6年生まで一貫して全国平均を大きく下回る傾向にある。特に4年生男子の握力のTスコアは40.82と全項目で最低値を示した。
- **持久力の逆転現象**: 1年生女子において、20mシャトルランは対東京都Tスコア57.85という圧倒的な数値を誇っていたが、高学年に進むにつれて貯金が減少し、全国平均を下回るという「逆転現象」が見られた。
- **今後の改善策**: 1年生には「反復横とび」向上のための外遊び、中・高学年には鉄棒遊具運動や、投力向上のための体全体を使ったフォーム指導を継続的に実施する。

3. 「よく考えすすんで学ぶ子ども」～主体的な学びと学力定着～

(1) データ管理による指導の転換

本年度より業者テストを全学年で統一し、2 学期からはデータ管理を導入した。これにより、教員の経験則に頼るのではなく、客観的なエビデンスに基づく課題抽出へと転換した。テストデータの可視化により、教員の ICT 活用に対する肯定意識も 85% へと向上した。

(2) 各教科の学力分析(全国・市学力調査結果)

本校の児童は、国語・算数ともに市平均および全国平均を上回る良好な推移を見せている。

- **算数(強みと二極化)**: 平均正答率は 62%(全国 58.0%)と高く、特に上位層の厚さが特徴である。一方で標準偏差は 4.2 と高く、得意な児童と苦手な児童の「二極化」が激しいことが課題である。
- **国語(安定と読解力の課題)**: 平均正答率は 66%で、全国平均と同水準にある。しかし、最上位層(12～14 問正解)の割合が全国より少なく、高度な読解力や記述表現力の育成に課題を残した。特に物語文の心情理解や、理由を具体的に記述する問題での無回答率が目立った。
- **理科(明確な課題)**: 平均正答率は 56%で、東京都(60%)や全国(57.1%)を下回った。特に下位 25%(第 1 四分位)の正答数が 6.0 問(全国 7.0 問)と低く、下位層の停滞が平均を押し下げている。

(3) 具体的な学習指導の工夫

- **朝学習(ラーニングタイム)の定着**: 1 時間目の授業への意欲を高める意識付けとして機能している。国語では「言葉の達人」アプリの活用、算数では前学年の復習プリントなど、個に応じた課題に取り組んだ。
- **ICT の創造的活用**: 算数においてシミュレーションを通して図形の変化や、速さと距離の変化など、ICT を活用し実感させる指導を行った。今後は単に「使う」段階から、児童自らが課題解決に役立てる「創造的な活用」へと引き上げる。
- **指導の改善**: 国語では「話し方・伝え方の型」を掲示し、根拠を明確にした発言を促す。算数では、問題解決の前に「答えの見通し(量感)」をもたせる思考過程を重視している。

4. 「仲良く助け合う子ども」～豊かな心とインクルーシブ教育～

(1) いじめ防止と組織的対応の迅速化

いじめ認知件数は前年度の 3 件から 105 件へと急増した。これは、教職員による些細な変化の見逃さない姿勢が機能し、「隠れたいじめ」を掘り起こし早期対応の結果である。いじめの重大事態は 0 件とすることができた。

- **即時対応の徹底**: その日に起きた事案をその日のうちに全職員で共有し、解決に向けて行動する「即時指導体制」を確立した。その結果、「3 か月以上継続する事案」はゼロを達成した。

(2) 特別支援教育と交流教育の推進

「個別の指導計画」に基づき、特別支援学級の児童が通常学級で国語や算数などの主要科目の授業を受ける交流教育を推進した。この段階的な支援の結果、特別支援学級在籍児童 9 名のうち 3 名が通常学級へ進学するという極めて大きな成果を得た。

(3) 道徳・体験活動

道徳授業地区公開講座や、異学年集団活動(キッズ遊び)を通し、他者への思いやりやコミュニケーション能力の育成を図った。不登校児童に対しても、管理職やスクールカウンセラー、SSW が組織的に対応し、登校支援を全力で実施した。

5. 地域・保護者との連携と学校運営の効率化

(1) 地域教育資源の活用(ESD/本物体験)

地域と一体となった教育活動を多角的に展開した。

- **出前授業・見学**: 1・2 年ダンスチーム、3 年鈴木農園・スーパーアルプス、4 年野鳥観察・長池公園、ヤマザキ動物看護大学 5 年カイコ産業・トヨタ自動車、6 年都立多摩さくらの丘学園との交流など、各学年で「本物」に触れる機会を創出した。
- **地域行事への参加**: 青少対地域清掃(クリーンデー)や地域防災訓練等に多数の教職員が参加し、地域との信頼関係を深めた。

(2) 安全管理と組織運営の高度化

- **事故ゼロの継続**: 組織的な危機管理により、児童の大きな事故ゼロを達成した。エピソード研修や災害伝言ダイヤル訓練、図上訓練を実施し、災害対応力を向上させた。
- **事務・予算の効率化**: 全会議資料の PDF 化によるコスト削減や、迅速かつ透明性の高い予算執行を行った。事務室経営においても、教員が教育活動に専念できる環境づくりに努めた。

(3) 小中一貫教育の推進

別所小・中学校との相互授業参観、合同あいさつ運動、部活動体験・交流音楽会等を実施し、9 年間を見通した「学びと育ちの連続性」を意識した指導を実践した。

6. 今後の重点課題と展望

本年度の成果を土台とし、次年度は以下の課題解決に重点を置く。

1. **学力格差(二極化)への対応**: 特に算数・理科における下位層の底上げを図るため、放課後学習や ICTドリルを用いた個別フォローアップをさらに強化する。
2. **思考・表現力の伸長**: 日常の授業で表現する力を高めるために、小グループでの話し合い、自分の考えを発表する場を習慣化させる。
3. **身体能力のバランスの良い育成**: 長座体前屈の強みを維持しつつ、全校で握力・投力向上に向けた「日常的な運動」を習慣化させる。
4. **互いに認め合う豊かな心を育成する**: 道徳の授業や学校行事で児童の対話や協働をとおして考えを交流し、多様な価値観に触れる経験を積み重ね、相手を理解し思いやる態度を育てる。

教職員一同が保護者・地域から信頼され、児童が誇りをもてる秋葉台小学校の創造に邁進する。